

## 福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.22

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

### 放出する水のトリチウム濃度の監視

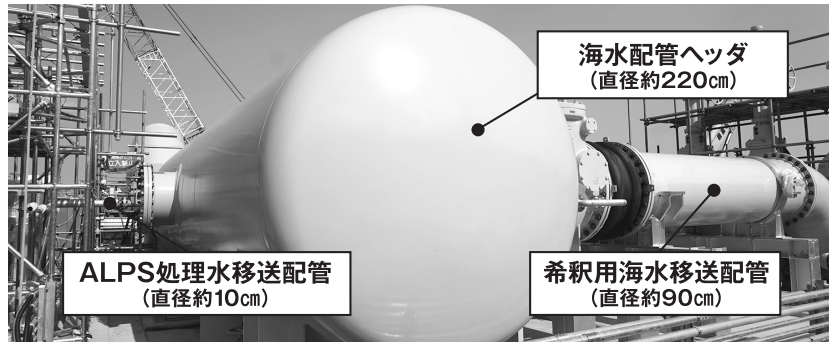
トリチウム濃度は、リアルタイムで水の流量を監視することにより、管理します

海洋放出する水のトリチウム濃度を確実に1,500ベクレル/ℓ<sup>\*</sup>未満にするため、希釈前に測定したALPS処理水のトリチウム濃度に応じて、ALPS処理水の流量を調整しつつ、大量の海水で十分に希釈します。海水での希釈に際しては、海水配管ヘッダ（ALPS処理水と海水を均一に混合するための設備）へのALPS処理水の流量<sup>\*\*</sup>と希釈用の海水の流量<sup>\*\*</sup>の双方をリアルタイムで監視し続け、その流量から算出されるトリチウム濃度と併せて、その状況を当社ホームページで公開してまいります。

※1. ベクレルは放射性物質がどれくらい放射線を出す能力があるかを表す単位。トリチウムを環境に放出する場合の規制基準は、60,000ベクレル/ℓ<sup>\*\*</sup>  
※2. 一日あたり最大500m<sup>3</sup> ※3. 一日あたり34万m<sup>3</sup>以上



〈監視訓練の様子〉



〈希釈設備〉

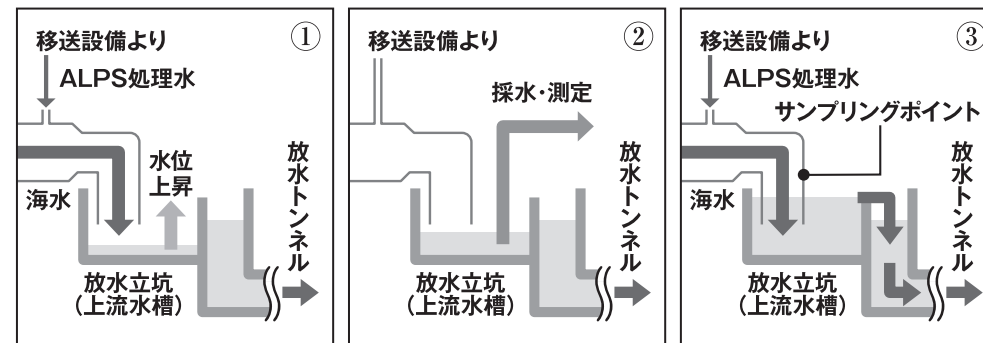
## 皆さまからの声におこたえします

Q 海洋に放出する水のトリチウムの濃度は測定しないのですか？

A 放出を開始してから当面の間は、放出する前に直接、トリチウム濃度を測定します。ALPS処理水の放出にあたって、放出開始当初は少量の放出から開始しますが、次の手順で測定を実施します。

- ① 海水で希釈したALPS処理水は放水立坑（上流水槽）を通過して海底トンネルから放出されますが、放水立坑で少量を一旦溜めます。
- ② 溜めた水を直接採取してトリチウム濃度を計測します。
- ③ 計測の結果と、計算上の希釈後のトリチウム濃度が同程度であり、かつ1,500ベクレル/ℓ<sup>\*\*</sup>未満であることを確認し、海洋へ放出します。

放出を予定するタンク群の水を連続で放出しますが、放水立坑に入る前の配管に設置されたサンプリングポイントから水を採取して、トリチウム濃度を毎日確認します。



ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください  
▶[処理水ポータルサイト]  
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>



希釈設備の概要についてはこちらをご覧ください  
▶[Vol.14 移送・希釈設備]  
<https://www.tepco.co.jp/decommission/effort/index-j.html>



福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策  
▶[皆さまのご意見をお聞かせください]  
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社  
福島第一廃炉推進カンパニー  
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22